

平成27年度地域ケア個別会議の課題

○ 地域のネットワーク関連課題

- 1 地域とのネットワークをしっかりと作る必要があること
地域の自治会、町会、民生委員、関係機関との連携強化
- 2 高齢者相談センターは地域の方と顔の見える関係を築いていく必要があること
地域の方への認知症の勉強会を行ったり、地域で困ったことがあれば必要に応じて地域ケア会議を開くなど
- 3 把握されていない埋もれているケースの発掘をすること
- 4 地域で高齢者が孤立しないような体制作り
 - (1) 独居で地域との関わりが希薄な高齢者へのアプローチ
 - (2) 地域での見守りは重要であり、意識して作り上げていくこと
 - (3) 「見守り・気づきあい」の機運を地域で高めていくこと
 - (4) 見守りや安否確認等、住民間でのルールを定着させること
- 5 高齢者の異常の早期発見、通報するシステムづくり
- 6 緊急対応時に高齢者の意向が確認できるシステムづくり
- 7 地域について話し合える機会・場を作っていくこと
- 8 地域の課題の把握を行うこと
- 9 生活必需品の確保・方法について地域の商店との連携体制の確保
- 10 在宅生活の限界点を関係者と家族とで判断すること

○ 認知症関連課題

- 1 認知症に対する知識・予防・対応方法についての勉強会により、認知症についての理解をひろめること(認知症サポーター養成講座への参加)
- 2 認知症の早期発見のために地域での取組の検討
- 3 地域として認知症の方との関わり、連携体制の検討
孤立している高齢者や認知症のために他の人との関わりを拒否している高齢者へのアウトリーチを、地域のボランティアや民生委員の方たちの力を借りて行うこと
- 4 地域の関係機関が連携し 認知症や徘徊があっても安心して出かけられるよう地域づくり
- 5 認知症の方が電車など公共の交通機関を使用してお出かけしてしまった場合に迅速な対応ができる体制が必要である。
- 6 認知症対応能力の高い医師、特に訪問診療で必要
- 7 個人情報保護による障壁
- 8 独居認知症高齢者の在宅生活を支えていくシステム作りが必要

○ 高齢者相談センター等の周知課題

- 1 区民への啓発のため高齢者相談センター等につき以下の内容を周知・発信すること
 - (1) アウトリーチによる支所の役割
 - (2) 専門機関・高齢者相談センターの役割
- 2 何かあったときに地域の方が相談できる環境づくりを形成すること
- 3 各相談機関は関係機関や地域へできるかぎり情報提供すること

○ 孤立高齢者対策課題

- 1 ひきこもりがちな方を地域資源へ繋いでいくこと
- 2 不安感が強い高齢者への相談や対応方法等
- 3 入院や施設入所になった際の身元保証人の問題
- 4 鍵の保管、または保管先がわかるシステムづくり
- 5 家族の支援が受けられない場合の地域支援体制の検討
- 6 独居で緊急介入が必要な際、家族がいない場合の対応

○ 社会資源の発掘課題

- 1 地域の状況に応じた社会資源の発掘
- 2 書類の手続き支援をしてくれる社会資源が必要
- 3 自主的に活動する住民の方を支援すること

○ その他の課題

- 1 ご本人家族の金銭面での支援方法を検討すること